

＜今日の説教のポイント テモテへの手紙 I 2章 1～7節＞

1 (1) ポイントは、「すべての人のために」(1,2,4,6)。

神様に「願いと祈りと執り成しと感謝」をささげなさいという教えから始まりますが、それが自分のためにではなく、この後4回、1, 2, 4, 6節に出て来る「すべての人のために」である点が重要です。この個所のキーワードはこの「すべての人のために」です。

2 (2) 神様がすべての人が救われることを望まれる方だから。

「王たちやすべての高官」(2)は、当時も今も、キリスト者を苦しめる者の代表です。彼らによって「私たちが常に信心と品位を保ち、落ち着いた生活を送る」ことができなくなることもあるのに、パウロは「～落ち着いた生活を送るため」に彼ら「のためにも」神様に祈りをささげなさいと教えています。彼らもまた「すべての人のために」の中に入っているからです。3～4節でそのことがよく分かります。

3 (3-4) 神様とはこういうお方なのだ。ここから教えられる神様！

「神様はすべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます」。神様とはこういうお方なのです！ 聖書で初めて知らされ、だから今後は、「まず第一に」(1:16, 2:1)、そのことから考えるようになるべき、また、考えることができる素晴らしい内容です！

4 (5-6) 憎しみの連鎖を断ち切る聖書的理由がここにあり！

5節の先頭に、「というのは」という語が原文には入っています。このような神様が唯一おられるのであり、その神様が「すべての人の贖い(身代金が原語の意味)」としてキリスト・イエスを送って下さったからと、パウロは「すべての人が救われるため」に祈る理由を説明しているのです(ローマの信徒への手紙 3:21-26, 29-31)。

5 (7) 虐殺横行の今、聖書の神を信じる者が立ち帰るべき内容。

ユダヤ人の思想家ジュディス・バトラーが、今のガザ虐殺状況について「生の平等な哀悼可能性(ungrievable)を否定すること」としてパレスチナ人を暴力の対象として命を奪うことへの批判をし、「他の生命を破壊することは、自分自身を破壊すること」と言っています。神様がすべての人(憎しみの相手をも含む)を救いたいと望まれているから、私たちがそのために祈り取り組んで行く。この聖書の個所から知らされる内容の真理と重要性を思わずにはおれません。